

自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 22年 6月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770109144		
法人名	有限会社 杜の里		
事業所名	グループホーム 杜の里		
サービス種類	認知症対応型協同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市西区山田3丁1034番23		
自己評価作成日	平成22年4月11日	評価結果市町村受理日	平成22年7月9日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成22年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念に掲げた「ご利用者に寄り添い、地域と共にサポートする」をモットーに、ご利用者やご家族とのコミュニケーションを大切にして、地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいます。ホーム周辺には店舗や住宅が少なく、ご利用者が歩いていける距離に公園等ありませんが、施設の中での生活を楽しくて頂けるように日々工夫したり、車での外出や地域行事への参加支援に努めています。職員は、様々な事柄に対して積極的に情報・意見交換し、ケアの質の向上を図る努力をしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域密着型サービスの意義をふまえた理念を明文化し、事業所内への掲示、新入職者への説明、朝の申し送りや唱和など様々な方法で浸透を図り、ミーティングなど話し合いの際には理念に立ち戻る機会を持ちサービスの実践に活かされるように取り組んでいる。担当者会議を実施し、利用者・家族の要望を反映させた計画に基づいた実施状況をモニタリングで確認し、毎月1回会議でケアプランの見直しを行い、関係職員が意見や気づきを出し合い、利用者の現状に即したケアの提供ができるように積極的に取り組んでいる。外食を兼ねた散歩や裏庭へ出て短時間でも戸外で過ごせる機会作りや季節の外出行事などで気分転換やストレス発散などの機会を多く持ち利用者の希望に応じた外出支援を行っている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念の額装を玄関や職員室に掲げて意識付けを図り、毎朝の申し送り時に唱和している。職員の入職時に理念の持つ意味を説明している。</p>	<p>地域密着型サービスの意義をふまえた理念を明文化し、事業所内に掲示している。入職時に説明し共通認識を持つとともに、朝の申し送りで唱和し、ミーティングなど話し合いの際には理念に立ち戻る機会を持つなど、理念の意味が職員に浸透し、サービスの実践に活かされるように取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の運動会、盆踊り、祭り等の行事に参加したり、近隣の保育園や小中学校と交流している。こども110番の登録や子供会の古紙回収に協力している。</p>	<p>地域の行事・幼稚園や小中学校の行事・老人会活動に参加し、地域との活発な交流が継続できている。子ども会のリサイクル活動・子供110番などにも協力し、地域の役割を積極的に担っている。行事への参加・日常の外出など地域へ向くことで、地域の馴染みの方との出会いがある。西区の在宅ケアを考える会学習会に参加し、地域への貢献にも努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホーム見学希望者を柔軟に受け入れ、その際に質問に応じたり、介護保険制度や認知症介護等に関する相談窓口についてお話ししている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議ではホームの状況報告後に、質疑応答の時間を設け、ご要望があれば話し合い、提案頂いたご意見等をサービスの向上に活かすように努めている。</p>	<p>利用者・家族・老人会会長・地域包括センター職員・知見者が出席し、年6回運営推進会議をを定期的に実施している。会議と同日に行事を行い、ホームの様子が実際に見られるように工夫している。会議では、利用者の現状やホームの取り組みなどについて報告し、参加者からの質疑・家族からの要望など、活発に意見交換を行い、サービスの向上に活かせるように取り組んでいる。会議の議事録を全家族に配布し、会議の内容を報告している。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センター担当者に、運営推進会議の議事録を毎回提出している。市の指導には速やかに対応し、必要に応じて電話や直接赴いて相談している。</p>	<p>西区グループホーム連絡会に参加し情報収集を行うとともに、連絡会主催の勉強会には職員も参加し、市の方との交流を深めている。運営推進会議には地域包括センター職員の出席があり、議事録を毎回提出し報告している。疑問・相談などが生じた際は、地域包括センター職員・市の担当職員に問い合わせ、適切に対応できるように協働している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会、入職時オリエンテーション、外部研修への参加等で、理解、浸透を図っている。立地条件が悪くご家族のご要望もあり、出入口は施錠している。</p>	<p>身体拘束をしない方針を事業所内に掲示し、職員間の周知を図っている。また、年間計画に基づいた研修を行い、身体拘束をしないケアの理解を深め、実践できるように取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、職員・家族と共に検討し利用者の安全性を施錠しているが、利用者の希望や要望に応じて対応することで閉塞感を感じないようにしている。利用者の希望で夜間のみベット柵を使用している利用者も居るが、必要最小限にできるように努めている。</p>	
7		<p>虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会、入職時オリエンテーションで理解を深めている。職員会議で事例検討し、自分達のケア方法を確認しながら、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会、入職時オリエンテーションで学ぶ機会を持ち、資料ファイルを閲覧できるように設置している。必要に応じ、ご家族に制度の説明をしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や改定の際は書面で示し、不安や疑問点に対する十分な説明に心がけている。契約解除に至る場合には、現状を説明して同意を得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、事業所内・外の相談窓口も掲示している。運営推進会議やご家族の面会時にご意見・ご要望を聴取し、話し合う姿勢に努めている。	担当者が利用者の身体状況や生活状況を定期的に報告する他、変化があった時には速やかに電話などで報告するなど、日頃から話しやすい人間関係の構築に努めている。家族面会が多く、少なくとも月に1回は来訪があるため、ホーム長や職員から声をかけ積極的に意見や要望を聴き取っている。他にも、意見箱の設置・運営推進会議など、意見・要望を出せる機会を設けている。出された意見や要望は、ホーム長に報告し、スタッフ会議で話し合い検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議で意見を出し合い、問題や改善を要することがあれば、解決策を話し合っている。良い方法は実践に移す体制ができています。	日頃の気づきや意見を記入する用紙を用意しており、職員会議で話し合い、運営に反映させている。年に1回ホーム長との面談があり、職員からの意見や要望を個別に聞き取る機会を設けている。個別の面談で聞かれた意見は、職員体制・勤務体制などに反映できるように配慮している。ミーティング・職員会議・常勤会議など、話し合いの機会を数多く持ち、多くの意見が引き出せるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談を通して、総合的な意見や悩み等の把握に努めている。勤務姿勢や資格取得等の努力を評価し、給与に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会の年間計画を立て、月1回実施している。職員個々の力量に応じた外部研修等への参加を勧め、積極的な職員には掛かる費用を会社が負担している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>月1回の西区GHの会、6ヶ月に1回の堺市GHの会に出席し、交流を図っている。お互いの職員が、他施設を見学したり勉強会に参加する等している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前面談は必ず数名の職員で行い、様々な問題に対応できるよう心がけている。心身の状態やご本人の思いに向き合い、信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご家族が求めていることやこれまでのご苦労の経緯を受け止め、ホームで対応できることについて話し合い、不安の解消に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性に応じて優先順位を見極め、必要な支援の対応に努めている。ご希望の内容によっては、他事業所のサービスの紹介も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活場面において、ご利用者が得意分野で力を発揮できたり、役割を持てるように援助し、ご利用者と職員が共に支え合える関係を大切にしている。</p>		
19		<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の面会時に近況を伝えたり、居室担当職員が年3回ご家族様に葉書等でお便りし、双方の潤滑油となって共にご本人を支える関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の協力を得て、お正月や誕生日に親類縁者が集まるお祝いや、冠婚葬祭等に参加できるように援助している。ご自宅等への外泊支援も行っている。</p>	<p>外出・外泊支援のマニュアルを作成し積極的に支援を行っている。知人や友人の方から連絡があれば、家族へも連絡を入れ面会や外出がし易いように配慮している。馴染みの場所や人との交流への要望が出にくくなっているため、日常の会話の中から汲み取り、馴染みの場所や人との関係の継続が支援できるように配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>申し送り等でご利用者同士の関係を把握した上で、認知症の状態や性格等に関わらず、共に生活する仲間として支え合えるよう、職員が調整役となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後でもご相談等があれば電話等して頂いてよいことをお話している。入院された場合等には、必要に応じて情報を提供し、連携に心がけている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりや会話の中から思いを汲み取り、普段と違う表情等も察知できるよう努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族等から情報を頂いている。</p>	<p>入居時アセスメントで、利用者・家族から情報収集を行い、思いや意向の把握に努めている。センター方式を活用した書式に記入し、入居後に日常の会話などから聴取した思いや意向についても書き加え、職員間で共有し、日々のケアの実践に活かしている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>認知症介護研究・研修東京センター方式の一部を活用し、生活歴や経過等の把握に努めている。入居後は信頼関係を築きながら、徐々に情報収集している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎朝・夕の申し送りや介護経過記録から現状を把握した上で、それぞれの「できること」や暮らし方の希望を探り、ご利用者の全体像の理解に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前に担当者会議を開き、ご本人の希望を確認したり職員が意見を出し合って、プランに反映させている。作成後は、毎月の職員会議で見直している。	担当者会議を実施し、利用者・家族の要望を反映させた計画を、関係職員が意見を出し合って作成するようにしている。計画に基づいた実施状況をモニタリングで確認し、毎月1回会議でケアプランの見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、日々のご様子やケアの実践・反応を記載し、職員間で共有している。気づき等は送りや職員会議で話し合い、プランに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師を中心に医療機関との連携に努め、人工透析や食事療法を要する方の援助を行っている。ご要望に応じて、受診介助や買物代行等を援助している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所の訪問リハビリテーション、ヘルパーサービス、福祉用具購入・レンタル等を活用している。地域ボランティアの方にも訪問して頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関以外でも、入居前からのかかりつけ医による医療の継続や、ご本人やご家族が希望される医療機関に受診できるよう援助している。	希望のかかりつけ医を聞き、希望される医療機関での受診を支援している。ご家族同行できない場合は職員が同行している。受診の際は、必要なデータ・記録を用意し、提供している。内科・整形外科・歯科・歯科衛生士の往診がある。必要に応じて、認知症専門医へも受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>介護職員は、小さな気づきも積極的にホームの看護師に報告し、看護師が中心となって健康・服薬管理を行い、医師の指示のもとで介護職員を指導している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際は、電話連絡や面会時等に担当看護師や相談員との情報交換に努め、ホームで対応可能な状態で早く退院できるように働きかけている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りの指針」の中で、ホームで対応できる事を明示し、入居時に同意を得ている。ご本人の心身状況を踏まえ、早い段階からご家族と話し合っている。</p>	<p>看取りの指針を入居時に説明し、同意を得ている。主治医が終末期と判断した場合、ケアプランを作成し、主治医・家族・職員で方針を統一して取り組んでいく用意はあるが、実例が現在はない。勉強会を今年の年間計画に入れて予定している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>「事故発生時の対応マニュアル」を作成し、入職時に説明している。看護師が中心となって、緊急時の対応・応急処置方法について勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を実施し、可能なご利用者には参加頂いている。夜間の火災や水害の発生等、立地・設備状況から考えられる場面を想定して訓練している。</p>	<p>消防訓練年2回・防災訓練を年1回、昼夜想定・水害の発生想定をし実施している。運営推進会議で災害対策について話し合い、消防署の指導内容を伝え、老人会長に協力を要請している。水・缶詰等を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に合わせた言葉かけやさりげないケアに努め、気になる対応については、職員会議等で話し合いお互いに注意しているが、排泄等のプライバシーへの配慮は十分でない。	利用者一人ひとりに合わせたその人らしい言葉かけや対応が行われている。日々のケアの中で気になる言葉かけや対応があるときは、職員会議やミーティングで話し合いを行い、職員同士で注意を促せるように取り組んでいる。プライバシーや接遇について具体的なマニュアルを作成し研修などを通して人格の尊重やプライバシーへの配慮を徹底していくように取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に決めてしまう事のないよう選択肢を用意したり、思いや希望を表出しやすい場面を設定する等の援助を行い、自己決定を支援している。	/	/
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、ご利用者の主体的な活動を大切に、できるだけ一人ひとりの生活習慣やペースに合わせた柔軟な支援に心がけている。	/	/
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等はお化粧を勧めたり、好みの服装ができるよう援助している。訪問理容時には、ご本人や職員が希望を伝え、おしゃれを楽しんで頂いている。	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を取り入れた手作り昼食の機会を増やし、一緒に調理や片付けを行っている。ホームの畑で収穫した野菜を食材に使用し、共に味わっている。	利用者の好みや希望・季節感を取り入れた手作りの食事・おやつ作りの機会を増やし、食事を楽しむ取り組みがある。調理や盛り付け・下膳・後片付けなど利用者の体調や気分・力量に応じて職員と共に行い利用者の生活への意欲を引き出せるような言葉かけも行われている。職員も利用者と同じ食卓を囲み会話を楽しみながら食事をしている。隣接する庭で収穫できた野菜を調理し収穫への喜びや季節感を感じながら新鮮な食材を活かしたメニューの工夫もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の咀嚼・嚥下の状態に応じた食事形態を考慮し、摂取量は毎日記録している。水分制限を要する方や摂取量が少ない方はチェック表で管理している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の口腔ケア指導を受け、適切な用具を使用した毎食後のケアを徹底している。ご自分でできない方は介助し、義歯は週1回消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別の排泄チェック表でパターンを掴み、声かけ・誘導している。トイレ歩行が困難でも尿意がある方には、ポータブルトイレを使用して自立支援している。</p>	<p>排泄チェック表でパターンを把握し、事前に声かけ誘導し羞恥心や不安へ配慮したで支援を行なっている。便秘傾向にある方には、水分摂取を勧めたり、食事の工夫を行い自然排便ができるように取り組んでいる。水分や食事でコントロールできなければ、医師に相談し内服薬でコントロールを行い、便秘の予防と対応を行っている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>朝食メニューにバナナやヨーグルト等を取り入れたり、適度な運動や入浴で自然排便を促し、便秘時には医師の指示範囲内で屯用薬を使用して調整している。</p>	/	/
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>職員との会話を楽しみながらゆっくり入浴できるよう配慮し、体調や一番風呂の希望には順番を変え対応しているが、入浴可能な時間は制限されている。</p>	<p>利用者の安全性を考え入浴可能な時間は設定しているが、曜日や設定された時間内でできる限り利用者の希望を聞き支援するようにしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を感じゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる</p>	<p>なるべく日中の活 動を促し、夜間は心 地よく入眠できるよ う努めている。又、 ご利用者の習慣や体 調に応じて、ゆっく り休息できるよう援 助している。</p>			
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や要領について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている</p>	<p>個別の服薬一覧表 を作成し、職員が いつでも確認でき るようファイルして いる。薬の変更等は 連絡ノートで伝え、 症状の変化は健康 管理表に記載して いる。</p>			
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をして いる</p>	<p>ご利用者の能力を 見極め、役割を持 って活動したり得 意な事で力を発揮 できる場面作り に心がけ、張り 合いのある暮ら しができるよう 支援している。</p>			
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人 々と協力しながら出かけられる よう支援している</p>	<p>お花見等季節に 応じた外出、職員 との散歩や買い物 を援助している。 ティータイムに ファミリーレスト ランに出かけた り、ご家族との 外出支援も行って いる。</p>	<p>外食を兼ねた散歩 や近隣への散歩 等、日常的に外出 できるよう個別 の支援を行なっ ている。また裏 庭へ出て短時間 でも戸外で過 ごせる機会を 作り気分転換 やストレス発 散などの機会 が多く持ってい るようにしてい る。行事として の外出は年間 計画を立てて 行っており、 それ以外にも 天候や季節に 応じて随時 の外出の機会 をできるだけ 多く持つ事が 出来るように 支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の同意を得て、小額のお金を自己管理している方がおられる。ホームで預かっている場合には、希望に応じて外出時等に使用できるよう援助している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族の意向を確認した上で、電話をかけたり取り次ぐ援助を行っている。希望に応じて手紙の投函等をお手伝いし、大切な人との繋がりを支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングやホールには、ご利用者の作品や行事の際の写真等を貼ったり花を飾る等して、生活感や季節感を採り入れている。換気や湿度にも注意を払っている。</p>	<p>利用者の作品や行事や外出時の写真が貼られ、季節の花や手入された水槽には、熱帯魚が泳ぎ利用者がゆったりと落ち着いて過ごせる空間作りを行っている。椅子やソファを配置し、利用者が自力で移動し思い思いに過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング窓側にソファを配置して気の合う方と話をしたり、図書コーナーで過ごせる等の工夫をしているが、裏庭には腰掛けられるような設備がない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた日用品、思い出の写真等をご持参頂いているが、物が多すぎると混乱される場合もある為、ご家族とも相談しながら工夫している。	利用者の希望や状態に応じて、ベッドか畳を選択することができるようにしている。入居時より家族に協力を得ながら利用者の心身の状況を考え、使い慣れた馴染みの物の持参をしてもらい利用者の環境のギャップや混乱を最小限にし居心地よく過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで1・2階の移動には階段とEVが設置され、廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されているが、居室洗面台は車椅子対応でない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
アウトカム項目					
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている		ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない		
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない		
66		職員は生き生きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない		
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない		
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない		